

## 賛否両論、未成年者とノンアルコール飲料

宮木 由貴子

## ＜注目されるノンアルコール飲料＞

近年、アルコールを含まないアルコール風味の飲料、いわゆる「ノンアルコール飲料」に注目が集まっている。これまでも低アルコール飲料やノンアルコール飲料は存在したが、近年のものはビールやカクテル、ワインやチューハイなどと遜色ないほどの多様な味やのどごしを実現して注目されている。酒税法ではアルコール含有率が1%以上のものが酒類とされ、それ未満は清涼飲料水と扱われる。このため、微量のアルコールを含むノンアルコール飲料もあるが、アルコール含有率が0.000%という表示が取り入れられたことにより、アルコールを全く含まない点が強調されるようになった。

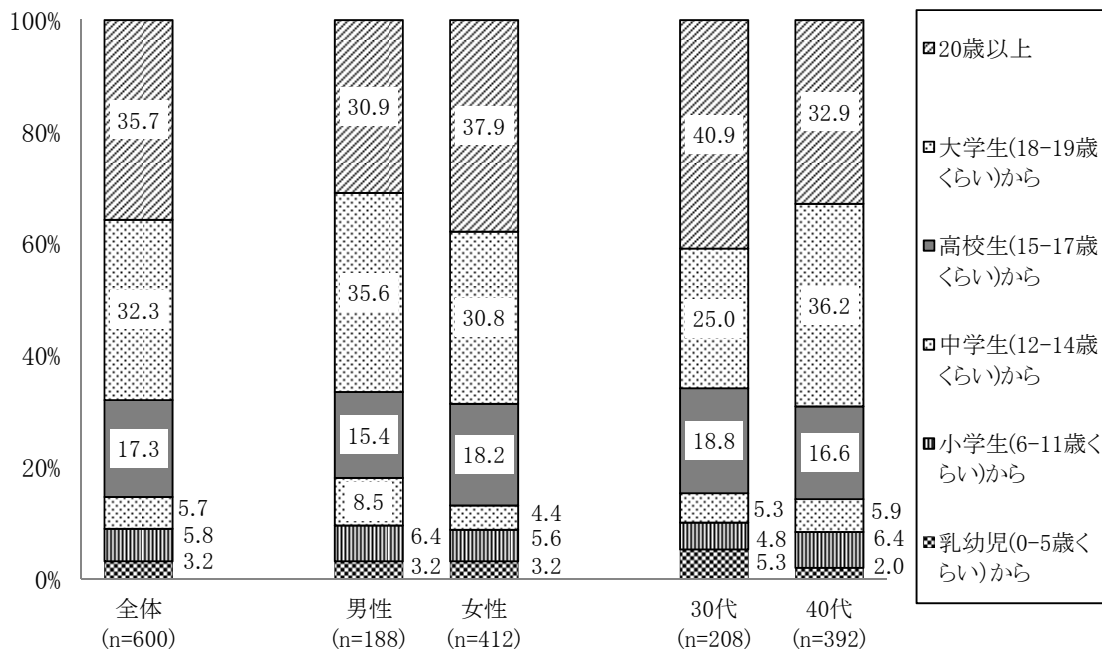
こうした製品が注目されてきた背景としては、飲酒運転への規制強化への対応というイメージがある。しかし実際には、ノンアルコール飲料はジュースよりも甘みが抑えられていて飲みやすい等の点から、夕食時や風呂上りにのどを潤す飲料として用いられたり、健康のための「休肝日」やダイエット目的でも利用されている。また、飲酒が苦手な人が、飲酒の場で周囲に気兼ねせずに飲めるとする声もある。さらに、妊婦や授乳中の女性、病気療養中等の身体的理由で、飲酒を控えなければならない人におけるストレス解消にも活用されているなど、生活のさまざまなシーンで飲まれるようになってきた。

ノンアルコール飲料は酒類には該当しないため、未成年が摂取することに対して少なくとも法律上の問題はない。また、完全なノンアルコール飲料は、発育を阻害するなどのアルコールによる健康上の弊害もないとされる。このため、ノンアルコール飲料を未成年者に飲ませてもよいのかを問う声が多々聞かれるようになった。ノンアルコール飲料の未成年者への提供に関する問い合わせに対し、メーカー各社は「未成年者において本物のアルコール摂取を誘発する恐れがあるため、20歳未満の飲用は控えてほしい」と回答している。ノンアルコール飲料は、未成年者を含め、妊婦や病気療養中といった身体的理由で飲酒をすべきでない状況にある人に対し飲酒を誘発させる可能性や、未成年が感覚的に飲酒した気分となってしまうことによるモラルの問題が問われるようである。販売店でも、ノンアルコール飲料は酒類のコーナーに陳列されており、販売時に年齢確認をするところも多い。

## ＜消費者の意識＞

実際に消費者は未成年者のノンアルコール飲料摂取についてどのように考えているのだろうか。これについて、未成年の子どもがいる30代・40代の男女の1,200人に対し、独自にインターネット調査を実施した。まず、何歳くらいからノンアルコール飲料（完全なノンアルコール飲料）を飲んでよいと考えるかについて尋ねたところ、最も回答が多かったのは「20歳以上（飲酒と同じ扱い）」（35.7%）となったが、僅差の32.3%で「大学生（18-19歳くらい）」が続いた（図表1）。また、「高校生（15-17歳くらい）」とした人も17.3%おり、さらに中学生以下をあげた人も散見されるなど、未成年でも年齢が高いほど肯定する人は多いものの、その意識は分散している様子が明らかとなった。性別では女性で、年代別では40代より30代で、「20歳以上」とする割合が多い傾向がみられた。

図表1 何歳くらいからノンアルコール飲料を飲んでよいと思うか(全体、性別、年代別)

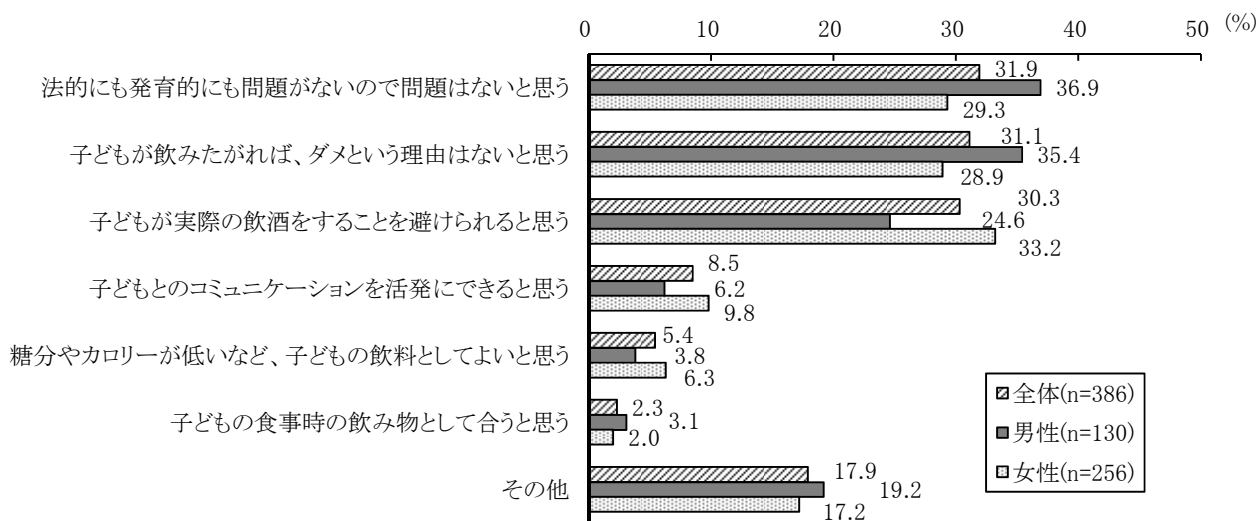


注：(株)ドゥ・ハウスの30代・40代モニター1,200名を対象としたインターネット調査により実施。最終回答数600、回収率50%  
調査時期は2012年7月9日から12日

資料：第一生命経済研究所「未成年のノンアルコール飲料の摂取に対する意識調査」

先の設定でノンアルコール飲料を乳幼児(0-5歳くらい)から大学生(18-19歳くらい)で飲んでよいと回答した人に対して、未成年がノンアルコール飲料を摂取することについての意識を尋ねた。その結果、「法的にも発育的にも問題がないので問題はないと思う」「子どもが飲みたがれば、ダメという理由はないと思う」とする人がいずれも3割強を占めた(図表2)。これら2つの回答は女性より男性で多いとい

図表2 未成年でノンアルコール飲料を飲んでよいと考える理由(全体、性別)〈複数回答〉



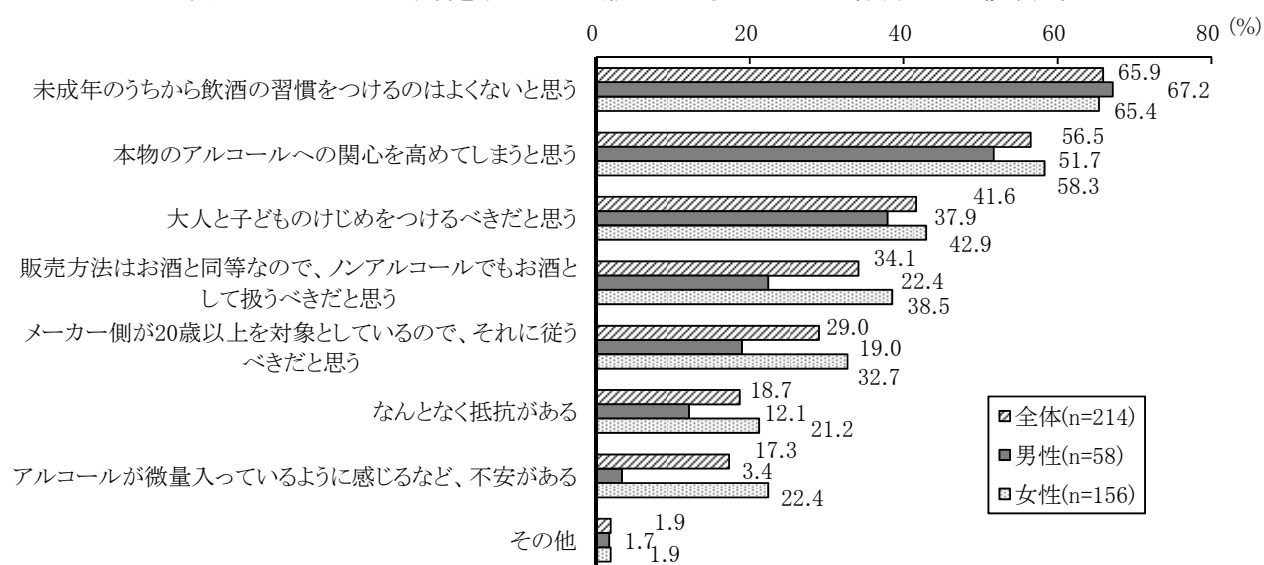
注：対象は図表1で「20歳以上」と回答した人以外

資料：図表1と同じ

う特徴がある一方で、女性では「子どもが実際の飲酒をすることを避けられると思う」とする割合が最も多く、男女で見解が異なる様子が見えてきた。

一方、ノンアルコール飲料を飲むのは20歳以上からと考える人の意見をみると、「未成年のうちから飲酒の習慣をつけるのはよくないと思う」(65.9%)、「本物のアルコールへの関心を高めてしまうと思う」(56.5%)、「大人と子どものけじめをつけるべきだと思う」(41.6%)といった意見が上位を占めた(図表3)。2位以下は男性に比べて女性の回答が多い点特徴的である。自由回答でも、「ノンアルコール飲料で酔う」とする女性があり、飲酒のイメージや雰囲気だけでも酔う感覚を持つ人がいる点が示唆された。

図表3 ノンアルコール飲料を飲むのは20歳以上と考える理由(全体、性別)＜複数回答＞



注：対象は図表1で「20歳以上」と回答した人  
資料：図表1に同じ

### ＜ルールづくりは各家庭の状況に応じて＞

「飲酒のようで飲酒でない」ノンアルコール飲料の摂取開始年齢については、様々な見解があることが明らかとなった。未成年のノンアルコール飲料摂取のように、法律上の規定はないがモラルの問題として許可も禁止も決定的に行えずルール作りが難しい事象が、様々な局面で生じている。例えば、低年齢の子どもにおける携帯電話・メール・インターネットの利用や、コンビニやファストフード店での買い食いなどである。これらは子どもの年齢や性質、友人関係や家庭の状況に応じて個々に感覚や事情が異なるもので、学校等でもルールづくりや対応が明確化できていない部分である。

こうした事象については、周囲の状況に合わせたり、なんとなく足並みをそろえたりといったその場しのぎ的な対応ではなく、年齢や状況に応じて各家庭で話し合い、「どういうケースならよいのか・だめなのか」「なぜよいのか・だめなのか」などの点について子どもに理解させた上で、家庭ごとにルールを作成していくことが大切なのではないだろうか。子どもの自由時間が増える夏休みは、これらについて家庭ごとに考える機会でもあるといえよう。